



平成31年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業



益子国際工芸交流事業 2019
アーティスト・イン・レジデンス in 益子
イリーナ・ラズモフスカヤ + ジェニファー・リー

Mashiko Museum Residency Program 2019
Artists in Residence in Mashiko
Irina Razumovskaya + Jennifer Lee



主催 益子町文化のまちづくり実行委員会、益子陶芸美術館
会期 2020年3月28日(土)ー6月14日(日)
会場 益子陶芸美術館

Organized by
Mashiko-machi, Committee for Promotion of Mashiko Culture Town
Mashiko Museum of Ceramic Art

28 March - 14 June, 2020
Mashiko Museum of Ceramic Art

写真：益子陶芸美術館
Photos : Mashiko Museum of Ceramic Art

目次

Contents

P.3	イリーナ・ラズモフスカヤ	Irina Razumovskaya
	プロフィール／作品	Profile / Works
	交流イベント／素材・技術	Cultural Exchange Events / Materials and Techniques

P.7	ジェニファー・リー	Jennifer Lee
	プロフィール／作品	Profile / Works
	交流イベント／素材・技術	Cultural Exchange Events / Materials and Techniques

益子国際工芸交流事業 2019
アーティスト・イン・レジデンス in 益子
イリーナ・ラズモフスカヤ + ジェニファー・リー

編集・制作／益子陶芸美術館
発行／益子町文化のまちづくり実行委員会
〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021

Mashiko Museum Residency Program 2019
Artists in Residence in Mashiko
The exhibition of the works by Irina Razumovskaya and Jennifer Lee

Editing and Design/Mashiko Museum of Ceramic Art
Publication/Mashiko-machi, Committee for Promotion of Mashiko Culture Town ©2020
3021, Mashiko, Mashiko-machi, Haga-gun, Tochigi, Japan 321-4217

凡例

- ・本書は2020年3月28日(土)から6月14日(日)まで益子陶芸美術館で開催される「益子国際工芸交流事業2019／アーティスト・イン・レジデンスin 益子／イリーナ・ラズモフスカヤ + ジェニファー・リー」展の図録である。
- ・本書のデザイン・制作は月村真由美が行なった。
- ・益子で制作した作品の写真は横堀聡が撮影した。
- ・本書の編集は月村真由美・大西昌子・阿部智也、翻訳は大西昌子が担当した。

Editor's Note

- ・The following is an exhibition catalogue for the exhibition "Mashiko Museum Residency Program 2019 / Artists in Residence in Mashiko The exhibition of the works by Irina Razumovskaya and Jennifer Lee" being held at the Mashiko Museum of Ceramic Art from 28 March through 14 June, 2020.
- ・This catalogue was designed by Mayumi Tsukimura.
- ・The photographs of works made in Mashiko were taken by Satoshi Yokobori.
- ・This catalogue was edited by Mayumi Tsukimura, Masako Onishi and Tomoya Abe, and translated by Masako Onishi.

イリーナ・ラズモフスカヤ Irina Razumovskaya

作家のことば

私のアートとの関係は、まだ幼い頃に形成されました。5歳からほぼ毎週エルミタージュ美術館に通い、過去のアートについて学ぶ講義プログラムを受講していました。先史時代の部屋と北方ルネサンスの部屋は、現在に至るまで、私が新しい作品について考えるためのお気に入りの場所となっています。

古典的なギムナジウム教育を受けたことは、私の仕事にも強い影響を及ぼしています。古典語を学んだことで、古代において日用品が存在した文脈、日用品に付随する建築や文化への情熱を抱くようになりました。私は自身を、過去の時代の職人や芸術家と同じような感性を持った作り手とみなそうとしています。

仕事では、作品に言葉を付加しないようにしています。自身の美的傾向や暗黙知を用いた、直観的な仕事をするためです。作品では、ミニマリスト的、構成主義的な建築的形状に、生命を吹き込みます。直接的、狭義的であったり、イメージやシンボルそのものにならないようにしています。私の作品は、例えば建築の細部、日用品、儀礼品のような、多文化的な記号に基づいています。さまざまな文化をリサーチしてそれらに到ります。そして自身のリアリティ、日々の生活に反映することを常に心に留めています。

Artist's Statement

My relationship with art was formed in my early childhood: nearly every week from the age of five I frequented the Hermitage Museum where I took a Lecture Programme course studying the history of art of the past. Until now prehistoric and Northern Renaissance museum rooms are my favourite places to think about new work.

A strong influence also exists within my practice reflecting my classical gymnasium education: learning antique languages lead to keenness on the context of everyday objects of an ancient past, the architecture and culture that they accompanied. I try to see myself as a maker with similar sensibilities to those of craftsmen and artists of bygone eras. In my practice I evade tacking any narrative to my work, letting myself work intuitively using my aesthetic preferences and tacit knowledge.

In my work I animate minimalist constructivist architectural forms. I seek to avoid direct, narrow, or exact images or symbols. I base my artwork on poly-cultural signs, such as architectural details, everyday and ritual objects. I come to them through research on various cultures and always bear in mind their reflection on my own reality, my everyday life.

2008-2014 サンクトペテルブルク
国立工芸デザインアカデミー
美術専攻、陶芸専攻 文学士、美術修士

2015-2017 ロイヤル・カレッジ・オブ・アート
陶とガラス 修士(ロンドン)

2018 ファエンツァ・プライズ 招聘作家
(イタリア・ファエンツァ国際陶芸博物館)
ロエベ・クラフト・プライズ
ファイナリスト(ロンドン)
国際陶磁器展美濃をはじめとする、
国際コンペ・レジデンスに多数参加。
現在、ロンドンを拠点に活動している。

2008-2014 BA, MFA, St. Petersburg State
Academy of Art and Design,
Fine Art Major, Ceramics Major.
2015-2017 MA, Ceramics and Glass,
Royal College of Art, London
Faenza Prize, invited artist, MIC museum,
Faenza, Italy
2018 LOEWE Craft Prize, finalist, London
Took part in many international
competitions and residencies.
Based in London.



2019.5.22(水) - 6.29(土)
[陶芸家・ロシア(イギリス在住) / 公募]



樹皮の肌
Barkskin
2019

建築の構造
Archistructure
2019



地球の景観
Earth Landscape
2019



交流イベント Cultural Exchange Events



A		B
		C
D	E	F

町長表敬訪問 (B)

5月23日(木)

場所: 益子町役場

公開制作 (A,F)

5月30日(木)、6月7日(金) 14:00-16:00

場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

ワークショップ (D,E)

6月15日(水) 13:30-17:00

場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

ロシアの陶芸について説明のあと、ロシア伝統のミルク焼成と土笛づくりを体験。16名が参加。

記念講演会 (C)

6月22日(土) 13:30-15:30

場所: 益子国際工芸交流館

素材・技術

Materials and Techniques

イリーナ・ラズモフスカヤは普段、建築の細部などからインスピレーションを得て、独特な表面を持った幾何学形の作品を制作しています。

益子では、益子の皿土にシャモットを混ぜたものを石膏型やろくろで成形し、表面には独自の釉薬を幾重にも重ね、普段と同じ電気窯での焼成だけでなく、活動の本拠地では難しい薪窯での焼成にも挑戦しました。また、日本で観察した建築現場も作品に反映しました。

ワークショップでは、母国ロシアの伝統技法であるミルク焼成やロシア陶芸の歴史についても紹介しました。後半の土笛づくりで全員の音の調整が完了すると、工房が歓声に包まれました。



1



2



3



4

- 1) 石膏型に粘土を押し付ける。開口部はスラプローラーで伸ばした粘土で覆う
- 2) 石膏型から外した粘土の表面をスクレーパーで整える
- 3) 素焼きした後、表面に釉薬を塗り重ねる
- 4) 釉薬と釉薬の間にシーラーを塗る

ジェニファー・リー Jennifer Lee

作家のことは

私の仕事は、自身の工房で材料と相互に作用し合うことに関わるものです。うつわは、つまんだり紐作りをしたりと、昔ながらの伝統的な技法を用いて手びねりし、土、水、酸化物といった基本要素を材料として用いています。

手びねりする前に酸化金属を混ぜ込み土を着色するという手法を発展させてきました。釉薬は使わず、表面に装飾も施しません。色がうつわに行き渡り、形と色が完全に一体化します。酸化物が互いにどのように反応するのか、帯から帯へ、光輪をつくりながら色が移っていく様子に、私は魅了されています。今も使用している土のなかには、30〜40年前に着色したものもあります。実験とテストを通して、ある混合物は時を経て変わりうることを発見したのです。元となる材料が結果を変えることもあります。

私の仕事は、前作を消化し、そこから内容を削ぎ落とすことを伴います。できあがったうつわを素描することはこのプロセスにとって重要で、次の作品のための情報を与えてくれます。素描やメモを参考にしながら、うつわが私の頭の中で進化していき、作っているうち、どんどん直感的に発展していきます。私たちが暮らす風景や世界は、絶えず変化しています。土を焼成すれば、一瞬の時間を切り取り、永続するイメージを作り出すことができます。

1956 スコットランド・アバディーンシャー生まれ
1975-1979 エディンバラ・カレッジ・オブ・アートにて
陶芸とタペストリーを学ぶ。
1980-1983 ロイヤル・カレッジ・オブ・アートにて
陶芸を学ぶ。(ロンドン)
2009 21_21 DESIGN SIGHT
「うつわ」展に出品。(東京)
2014 滋賀県立 陶芸の森にてレジデンス
(ゲスト・アーティスト)。
2018 ロエベクラフト プライズ大賞受賞。
現在、ロンドンを拠点に活動している。

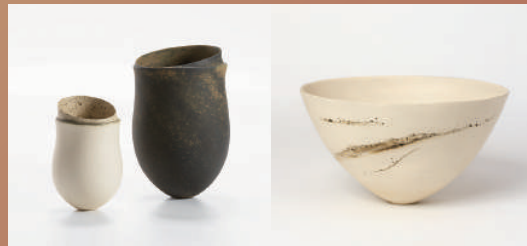
1956 Born in Aberdeenshire, Scotland.
1975-1979 Studied ceramics and tapestry
at Edinburgh College of Art.
1980-1983 Post graduate ceramics
- Royal College of Art, London. MA.(RCA)
2009 Exhibition "U-Tsu-Wa"
at 21_21 DESIGN SIGHT, Tokyo.
2014 Guest artist in residence
at Shigaraki Ceramic Cultural Park.
2018 Won the LOEWE CRAFT PRIZE.
Based in London.

Artist's Statement

My work is concerned with interacting with the materials in my studio. The vessels are hand-built using the ancient traditional techniques of pinching and coiling and they are made using basic elemental materials - clay, water and oxides. I have developed methods of colouring clay by mixing metal oxides into the clay before hand-building. I use no glaze or surface decoration. Colour runs through the pot thus form and colour are totally integrated. I am fascinated by the way oxides react with each other as colour migrates from one band to another producing haloes. Some of the clay I use was coloured thirty or forty years ago - I have discovered through experimentation and testing that certain mixes can alter over time. The source of materials can also alter the results.

My work involves a paring down of content from an assimilation of previous work. Drawing finished vessels is important to this process and informs the next piece. Referring to drawings and notes, the vessel evolves in my mind and continues to develop intuitively during it's making. The landscape and world we inhabit are in a constant state of change. When clay is fired you can create a lasting image, capturing a moment in time.

Work photos : Michael Harvey, Jon Stokes



2019.10.6(日) - 11.17(日)

[陶芸家・イギリス／招聘]



益子 37-19	益子 61-19	益子 42-19	益子 62-19	益子 38-19
Mashiko 37-19 2019	Mashiko 61-19 2019	Mashiko 42-19 2019	Mashiko 62-19 2019	Mashiko 38-19 2019

信楽淡色、影のあるにじみの跡
Shigaraki Pale, shadowed bleeding traces
2019

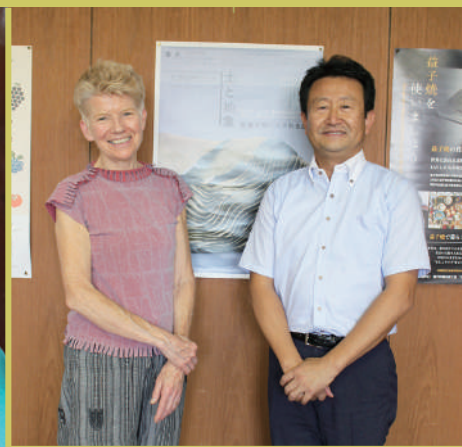


益子 59-19	益子 7-19	益子 43-19
Mashiko 59-19 2019	Mashiko 7-19 2019	Mashiko 43-19 2019





交流イベント Cultural Exchange Events



A		B
		C
D	E	F

町長表敬訪問 (B)

10月9日(水)
場所: 益子町役場

公開制作 (D,E)

10月17日(木)、25日(金) 14:00-16:00
場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

工房での制作 (A)

10月23日(水)
場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

制作実演ワークショップ (F)

11月9日(土) 13:30-15:30
場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

記念講演会 (C)

11月16日(土) 13:30-15:30
場所: 益子国際工芸交流館

素材・技術

Materials and Techniques

ジェニファー・リーは普段、手びねりでひも状の粘土を積み重ね、ゆっくりゆっくり時間をかけて乾かす繊細な手法で作品を制作しています。

益子では益子の桜土、ボクリ土、あさぎ土に加え、白信楽土、信楽透土を使用しました。まず色の組み合わせを検討するために、数多くのテストタイルをつくりました。6週間という限られた期間で陶板作品や、ろくろで小さなうつわを制作しました。益子の原土の色を生かすと同時に、様々な酸化物で着色して、うつわの表情を生み出しました。

様々な美しいものを見つけてきて工房と生活空間に取り込み、自身にとって居心地の良い空間を作って作業を行っていました。



1



2



3



4

- 1) 陶板に着色した粘土の帯を差し込む
- 2) 差し込んだ帯をなじませる
- 3) 様々な着色した粘土を混ぜ、ろくろでひく
- 4) シリコンカーバイドと水をのせたガラスの上でうつわを滑らせ底を滑らかにする

